香川県農業試験場研究報告　第 26 号(1975 年 9 月)　 21-24

香川県におけるハスモンヨトウの発生消長

大広悟・※横山光夫・葛西辰雄

香川県におけるハスモンヨトウの成虫と幼虫の発生消長を 1970 年から 1973 年の 4 ケ年間調べた。成虫は 8 月下旬から 10 月中旬までの期間に比較的多発生し,この時期には世代の区別が明確でなかった。

キャベツ畑で幼虫の発生を認め初めたのは成虫の誘殺灯への初飛来より著しくおくれており,8 月下旬であった。キャベツ畑での幼虫の発生は 8 月第 4 半旬～9 月第 3 半旬,9 月第 3 半旬～10 月第 1 半旬と 10 月第 1 半旬～11 月下旬の 3 山型がみられたが,発生量は後期世代ほど多かった。ハスモンヨトウの産卵数と幼虫数はキャベツ畑よりサトイモ畑で著しく多く,サトイモに対して選好性が高かった。

サトイモ畑におけるハスモンヨトウの幼虫数とニホンアマガエルの個体数との関係を調べた結果,ニホンアマガエルはハスモンヨトウの多い株に集来し,ハスモンヨトウの個体数が減少するにつれて,少なくなる傾向がみられた。このようなことから,ニホンアマガエルはハスモンヨトウの大きな死亡要因であるらしいことが判明した。なおサトイモでは 1 株のうち 1 葉くらいハスモンヨトウに食害されても,芋の収量にはほとんど影響ないことがわかった。